

平成29年度ふじみ野市立大井西中学校「卒業証書授与式」式辞

厳しかった冬の寒さもようやく和らぎ、満開の梅の香りに春の息吹を感じる今日の佳き日にふじみ野市教育委員会教育部長 土屋 浩 様、本校PTA会長 宮崎克彦 様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、そして多数の保護者やご家族の皆様のご出席を賜り、ふじみ野市立大井西中学校第42回卒業証書授与式がこのように盛大に挙行できますことに心より御礼申し上げます。

さて92名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。ただ今、一人ひとりに手渡した卒業証書は、中学校3年間の全課程を修了した証です。そして同時に義務教育9年間で完全に修了した証でもあります。男子の皆さん、こんなにも逞しく凛々しい男性になりましたね。女子の皆さん、こんなにも輝かしく美しく素敵な女性になりましたね。中学校に入学した3年前の幼く、あどけない、かわいい姿はいつのまにか消え、大人の雰囲気を感じられるまでに立派に成長しましたね。この目の前の姿がとても誇らしいです。

君たちは、私が大井西中学校に赴任して初めて出会った3年生でした。たった1年間でしたが、生涯忘れることはない素敵な3年生でした。合計4回行った校長面接は、真面目で素直で心優しい姿に心を打たれた面接でした。面接のたびに顔と名前が一致し、皆さんの性格や夢がわかるようになりました。将来、警察官になって人の役に立ちたいと言った君、世界を舞台にスポーツ選手として活躍したいと言った君、子どもが大好きで保育士になりたいと言ったあなた、英語を通じて世界で活躍したいと言ったあなた、そして担任の先生のような信頼される中学校の先生になりたいと言ったあなた、誰もがキラキラした瞳で自分の夢を語ってくれました。

クラスが初めて1つになって取り組んだ汗と涙の大縄跳びを覚えていますか。最後までピンチが続きながら初めて勝利した最後の入間東部大会を覚えていますか。初めはやる気が出ず、不安で始まった「流浪の民」の歌声が、迫力ある美しい歌声となって大井中央公民館に響き渡った感動、夏の部活で飲んだ美味しかった冷たい水の味、冬の体育館で必死にボールを追いかけた床の冷たさ、全てが今、かけがえのない思い出として皆さんの脳裏に浮かんでいることと思います。そんな3年生に本日、別れを告げなければなりません。もう大好きな友の声や共に心に寄り添って歩んでくれた先生たちの声を聞くことはありません。今まで当たり前前に思えた大井西中学校での生活がいかに素晴らしい時であったかを感じているのではないのでしょうか。

保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。思い出してみてください。小さな5本の指で母の人差し指をぎゅっと握りしめたあの時の、ほあんとしたあくびをして澄んだ瞳で見つめるあの時の、ハ

イハイができたと大喜びしたり、熱が出たといえは抱えて夜中に病院に連れて行ったあの時の、小さな小さな我が子がこんなにも立派に成長しました。そして15年の月日を経て、今皆さんの元から巣立とうとしています。

大切なお子様を3年間お預かりしました。私たち教職員一同は、常に子どもたちの成長を第一に考え、時には優しく時には厳しく全力で教育活動に取り組んできました。子どもたちが生きるこれからの世の中は、変化の激しい混沌とした時代になることは間違いありません。しかしどんな困難に出会っても大井西中学校での3年間がその困難を乗り越える原動力になってくれることを信じています。本日までPTA活動、学校応援団活動、そして地域の様々な活動を通して、本校へのご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。

さてお別れの時が近づいてきました。どうか幸せな人生を歩んで下さい。そのためには人のために役に立つ人になって下さい。人の喜びを自分の喜びのように喜べる人になって下さい。人は一人では生きていけません。人に愛をかければ必ずその愛は自分に返ってきます。人を大切にしない人は人から大切にされることはありません。自分が幸せになりたいなら人の幸せを願うことが一番の近道です。そしていつの日か自分の親が年老いた時、「大丈夫、心配しないで、私が面倒をみるから・・・」と言える心優しい人になって下さい。これが私からの最後のお願いです。3年生の皆さんが残してくれた数々の足跡はここにいる1・2年生がきっと歩んでくれるでしょう。卒業生92名は大井西中学校の誇りであり、私の誇りです。卒業生の前途に開ける輝かしい未来に期待と想いを馳せながら、私の式辞と致します。

平成30年3月15日

ふじみ野市立大井西中学校長 山崎 祐一